



「伝えたい木の文化、残したい美しい森」  
（美しい森林づくり推進国民運動）

# 日立電子サービスの美しい森林づくり



日立電子サービス株式会社（略称・電サ）が森林づくりに取り組んだのは社員の総意によるものです。社会貢献活動として何をやりたいかとの問いかけに、

「森林保全活動」を挙げた回答が一番多かったのがその理由です。

平成二〇年には神奈川県との間で水源の森林づくりに関する覚書を締結し

「DENSEAあんしんの森」が誕生しました。

その後、北海道、関西、中国、九州支社でも森林づくりに向けた取組が展開されています。

「自治体、企業、地域と協働関係を作っていくことが森林づくり活動の良さ。

画一的でなく地域の実情に則した取組を展開していきたい」が電サの森林づくりの基本姿勢です。



「DENSEA あんしんの森」のオープニング（上）  
除幕式も開催（右）

## 社会貢献としての森林づくり

日立電子サービス株式会社（略称・電サ）は、親会社である株式会社日立製作所が製造・販売した情報機器の設置、メンテナンスを行う会社としてスタートし、現在はICT（情報通信技術）企業として、顧客の情報システムの企画、設計・構築・導入、運用・保守などライフサイクルをトータルでサポートする事業を全国三二〇拠点で展開しています。

同社CSR本部の佐伯寿之CSR

推進センター長は、森林保全活動を始

めたきっかけを、「日立電子サービス

自体は大きな電力を消費する企業で

はありませんが、私たちはお客様の

情報システムをトータルサポートし

ている会社としてCO<sub>2</sub>排出に大きく

関わっています。地球温暖化という

問題が社会の大きな課題となってい

る今日、企業としては、まず省電力

型のシステムやサービスの開発・販

売に取り組むことはもちろんですが、

CSR（企業の社会的責任）や社員

の社会貢献活動といった観点から、



電サの森林づくり活動を支えるスタッフ（写真右からCSR推進センターの佐伯寿之センター長、矢形浩良チーフスペシャリスト、佐藤佳彦プロフェッショナルスペシャリスト）

また地球温暖化防止の観点から、多くの社員が参加でき、また全国各地での取組が可能なことを考慮して、

森林の保全活動を展開してはどうかと考えておりました」と話します。

平成一九年四月に発足した同社CSR本部は、その活動の開始に当たり、本部の考えを社員に強制することとは避け、まず社員から社会貢献活動に対する提案を募りました。この時に配慮されたポイントは、社会的課題への適応性、企業活動としての共感性、全国展開と地域への貢献、家族を含めた従業員の参加、行政やNPO等を含めた多くの関係者との連携性などです。職場ミーティングなどを通じて提案された意見は九三件に及び、その中で一番多かったものが森林の保全活動で、緑化活動への提案などを含めると提案内容は約一〇〇件と、他の活動に比べ圧倒的に多かったわけです。この結果は、CSR本部が描いていた社会貢献活

動と合致するものでした。

## DENSAあんしんの森

森林保全活動の取組はまず、フィールドの選定から始まりました。企業の森づくりフェアなどで自治体の情報などを収集したほか、東京都や神奈川県にも相談しました。

結局、同社の本社が平成一八年まで神奈川県横浜市にあり、同県在住の社員が多いことなどを考慮し、神奈川県の水源地パートナー制度<sup>（\*注）</sup>を活用することになりました。平成二〇年七月、同社は県と覚書を取り交わし、足柄上郡松田町<sup>（やどりき）</sup>寄に「DENSAあんしんの森」が誕生しました。

「DENSAあんしんの森」では、春には森への階段など施設の整備、夏には子供たちを対象とした自然観



「DENSAあんしんの森」で行われた間伐（写真上・下）

察会、秋には間伐に取り組んでおり、これらの活動に当たってはNPOかながわ森林インストラクターの会に作業の指導や観察会の講師を依頼しています。また、毎年一〇月にはパートナー林を有する



「やどりき水源林のつどい」での保全活動

企業が共同で実施する森林保全活動「やどりき水源林のつどい」にも社員やその家族が多数参加しています。

<sup>（\*注）</sup> 神奈川県が進める独自の制度で、県と企業・団体が覚書を締結し、県が指定する森林（パートナー林）において、契約相手方が水源の森林づくりに参加協力するもの

## 「人が財産」、意識の醸成も必要

「人が財産」を重視する日立電子サービスは、新入社員が全員、「コ学」と通称されるコンピューター

システム技術学校に入学し、八ヶ月間、一二〇〇時間という新人教育の期間を設けています。この間に、社会貢献意識の醸成を目的として、過去一〇年にわたり「大山クリーン登山」と題したゴミ拾い登



中国支社の森林づくり活動（写真上・下）

山を実施しています。将来は、新人研修の締めくくりとして、「DENSAあんしんの森」で森林保全活動を実施することを検討しています。

森林保全活動は、現在北海道、関西、中国、九州各支社などに広がっています。支社単位では参加人数に制約があり、単独での活動は難しいことから、それぞれの地域で実施されている植樹活動や森林整備のボランティア活動に参画する形をとっています。それでも、佐伯センタ長は「森林保全活動は、行政や地域のNPO団体などと協働関係を築きやすいことが魅力です。地域の実情に沿った展開を地域との連携を図りながら進めていく、そういう形で電サの森林保全活動が全国で展開できるようにすることがこれからの目標です」と意欲を見せています。